

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000022		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから緑地公園 (ユニット:モネ)		
所在地	豊中市西泉丘3-9-22		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.cocokaragp.com/ryokuchi/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念方針として「通いあい」「信じあえる心」「健やかな身体」を維持する事を目指しています。当事業所は近隣に「緑地公園」があり、自然と緑に囲まれた所に位置し、四季折々な花や竹林等が散歩できる環境に恵まれ、季節の移ろいを感じて頂けるよう季節行事も充実させ、お花見や夏祭りの際は家族様にも参加して頂き、共に楽しんで頂けるよう努めています。特に力を入れている点では、利用者様と個別に接する時間を摂りご本人が普段言えない本音や気持ちを汲み取り、今後のケア・看取り介護に繋げていく取り組みを続けています。また、職員間での情報共有、向上心に繋がる職員への教育も考慮し、働きやすい環境作りに努め、利用者様への優れたケアに繋がるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念を玄関に掲げ、職員全員が出社時に認識できるよう周知している。職員会議等での読み上げも実施している。 入居者様や家族様、地域の方や見学者の方にも目に入るよう掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、例年開催し参加を募っていた花火大会や敬老秋祭りは職員と利用者様のみで行い、中学生の職場体験、小学生の花いっぱいプロジェクトも本年は中止となる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校生職場体験実習の受け入れをしており、認知症の方との関わりを持ってもらうことによって認知症の人への理解や支援方法に役立てるよう活かしている。 (本年は新型コロナウイルス感染防止の為に中止) 社会福祉協議会より掲示板の借用し、地域に向けての情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年は運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、各ユニットでの近況報告、イベント、レクリエーションの報告、身体拘束廃止委員会、質疑応答などにより助言を頂き参考にさせて頂きながら新たな取り組みに役立っていた。本年は新型コロナウイルス感染防止の為に、報告書を2カ月に一度作成し、家族様・地域包括・社会福祉協議会・民生委員に郵送し、ご意見をもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進報告書を利用して、状況報告やホーム等の取り組みを伝え、不明な点、質問、変更事項等や希望などがある場合は話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回館内研修にて、身体拘束・虐待について、時には外部の研修を受講し、それを館内研修の日を利用して職員間で共有し基礎から学ぶ場を作っている。2～3ヶ月に一度職員会議内に身体拘束適正化に向けてのカンファレンスを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上管内研修の日で高齢者虐待・身体拘束についての研修を実施している。また、3カ月に1度の身体拘束適正化委員会を職員会議内で開催し、身体拘束に留まらず、不適切ケア・グレーゾーンについて考える機会を作り、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議・館内研修の日等で権利擁護及び成年後見人制度について研修等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や体験入居時にも契約、方針等の説明をし、疑問点があればお答えさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話やメールでの連絡、運営推進報告書の内容、アンケートなどにより意見を聞ける場を設け反映するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の以上実施している個人面談や、日々の会話から職員一人一人の意見が聞ける様努めている。また、毎月の職員会議に話し合いたい事など聞き取り、意見を会議に取り入れ反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を用い、各自が向上心を持って働けるよう努め、把握し日頃からコミュニケーションを大切にし、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年は新型コロナウイルス感染防止の為外部研修受講が難しかったが、館内研修の内容で学びたい事を職員に聞き実施できるように努めている。リモートでの外部研修受講も始めている。また、日々のケアの中で難しくなっていく事や、わからない事を聞き、リーダー・ケアマネを通じて良い方法を共有し、トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年は新型コロナウイルス感染防止の為、同業者との交流等ほぼ機会がありませんでしたが、リモートでの地域ネットワーク会議なども始まる予定なので参加し、質の向上に努めていく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、話し合える機会を設け、要望や不安なことを聞き、安心できるよう努めている。以前に受けていた介護サービスや医療関係者にも情報提供をお願いし、職員にも共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合える機会を設け、家族様の不安な事や要望を聞き安心できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様が必要としている事を伺い、体験入居の際「その時」必要としている支援や不要な支援等様子観察をしスタッフ間で情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様ひとりひとりに合わせ、家事など一緒に行い、支え合い生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を報告し、定期的に電話やメールを用いて相談・報告を行い要望や意見もお聞きしている。ご本人に必要なであれば、家族・介護・医療で連携を図りチームとして支援をする体制を作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お知り合いからの電話や手紙などの返事を書いて頂いたりしている。馴染みの店や美容室などには外出できませんでしたが、リモート面会や電話でお話して頂く機会が増え、関係を継続できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う、合わない方々を見極め席を決めさせて頂いたり、相性のいい利用者様とは個々に話ができる環境を作るよう努め職員も間に入り話題の提供・家事を一緒にして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去などで契約が終了してからも、ご連絡させて頂き近況を伺い、また、お亡くなりになった方には家族様には館で撮影した写真や思い出の物をお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向に添って支援をしている。意向を伝えられない方は家族様にこれまでの日々の過ごし方を聞いたり、表情や状態をしっかりと観察し支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様に聞いている。家族様にはセンター方式などのアセスメントできる資料の抜粋をお渡しし、記入をお願いしてこれまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で些細なことでも経過記録や申し送りや情報を共有、日々の対話やアセスメントを通じて情報を共有し現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人様・家族様・スタッフに計画作成者等が意見を求め現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、経過記録を記入している。気づきや工夫した事なども記録し、情報を共有している。見直しできる事はケアプラン作成時に参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対しては、スタッフ間や家族様、医療機関などに相談をし多機能に取り組めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、本年はボランティアの方は来館機会が減少しました。例年行っていた地域のイベントへの参加や、ご本人の望む買い物や外出などの支援はできず、施設の外や緑地公園への散歩に出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様に希望をお聞きしている。主治医の高い頻度の往診により健康状態の把握・些細な変化もすぐに相談・報告をしている。必要であれば主治医に紹介状などを書いて頂き受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時に気軽になんでも相談できる関係を築いている。24時間体制での相談も可能であり、変化があれば密に連絡を取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際はできるだけ同行し館での生活情報の伝達、定期的に面会に赴き、介護サマリーなど迅速に用意をし安心して頂ける様に支援。家族様・入院先の病院・かかりつけ医とも情報交換をし、退院前のカンファレンス・病状説明の際はかかりつけ医にも連絡をし出来るだけ参加して頂けるように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族様・スタッフ・ケアマネジャー・医療関係者等でカンファレンスを設け、方針を十分に考えられるよう支援している。状況に応じ何度でもカンファレンスが行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応についてマニュアルを作っている。定期的に職員会議や館内研修の日などで研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員会議・研修の日でも話し合う時間を設け、全職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、出来る限りプライバシーを守りながら声掛けやご本人の出来ないところの介助を行っている。職員会議を通じ定期的に接遇・マナーについて研修を行い全職員で再確認をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の健康状態・表情やしぐさをよく観察し、コミュニケーションを取りながら個々の思いを伺い自己決定ができるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの時間を大切にし、穏やかで楽しい生活が送れるよう心掛けている。職員の都合とならないよう注意し、本人の気持ちを尊重し希望に添って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや清潔感にも気をつけ、好みの物を選択できる方には選択をして頂き、その方らしい雰囲気が保てるよう支援をしている。また、意思の確認が難しい方であっても、家族様からご本人様の好みなどをお聞きしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には調理の手伝い・盛り付けのお手伝いをして頂き、食器の種類・配置や配膳の仕方に気をつけ、スタッフも同じ食事をとりメニューの話題などで会話をし、食事が楽しめるよう努めている。(現在同じテーブルでの食事は食べていない)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事量・形態・嗜好の理解をし、食器や食べ方にも工夫をして提供をしている。一日の栄養バランス・水分量が確保出来るよう支援している。月に1度の管理栄養士の訪問があり、アドバイスももらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時ひとりひとりの能力に応じたケアを行っている。必要に応じて援助・介助をし自立の方も含めて口腔内の状況をチェックしている。口腔診療医とも連携し、月に1度、口腔ケア技術についての指導書を記載してもらい、全職員で共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体機能に合わせて支援をしている。出来る限りトイレでの排泄が気持ちよくできるよう支援し、ひとりひとりの排泄パターン・能力の把握に努め介助が必要な方には自尊心に配慮し気を使われないよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活で便秘予防ができるように、水分量・乳製品の摂取や寒天ゼリー(牛乳・カルピス・スポーツドリンクで作った)を食べて頂いたり工夫をして便秘予防の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりひとりのその時々希望や気分に合わせて配慮しながら、体調に合わせて週に3回入浴ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた方には日中にも臥床時間を設け、ひとりひとりに応じた運動やレクリエーションをして頂いたり、その方に合わせた家事の手伝い等をして頂き、生活リズムが整うよう、夜間も安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストを確認できるファイルを用意し、処方通りに更新し、一目でどんな薬をどの時間にどれだけ服薬しているか把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の用意や片付け、そうじや洗濯などの家事仕事等、利用者個々で出来る事・出来ない事を把握し、出来る事を手伝って頂き、感謝の言葉をしっかり伝え継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為ホームの行事(初詣・花見・ドライブ・外食等)や地域の行事の参加は控えている。気分転換の為に、施設周りの散歩や緑地公園への散歩へでかけてもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は基本的には行っていないが、ある程度自立されている方は所持して頂き、欲しい物があれば立て替えて買って来た際に返金してもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様やご友人からの電話がかかってきた際には取り次ぎをし、話しやすい環境作りをしている。届いた手紙はお渡しし、読みづらい方には読んで差し上げたり、携帯電話を持たれている方には使用方法の説明も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾りを定期的に飾り、館全体での雰囲気作りに努めている。要望があれば居室の電気をリモコン式ではなく手で操作できる物に付け替えをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で話し合えるイスやソファを用意し歓談・談笑が出来る場所・空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が自宅で使われていた馴染の家具等を出来る限り持って来て頂き、見慣れた物に囲まれた居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの居室には表札を用意し、自分の居室・他者の居室が分かるようにしている。トイレや浴室には分かりやすいようカーテン等の目印となる物をつけ、工夫をしている。		